



「県民の民意は変わらない。負けずにデニー知事を支えよう」と声を上げる座り込み参加者=4日、沖縄県名護市辺野古

沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設に関する裁判で最高裁が県の上告を棄却した4日、辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前では新基地反対の座り込み抗議が続いた。県民らが「沖縄は決して負けない。玉城デニー知事を支えてたかいぬこう」と不屈の声を上げまし

ゲート前の座り込みは33347日を数えました。戦争を体験している沖縄市の仲井間小夜子さん(95)は、二度と沖縄を戦場にさせないと沖縄をさせないとの思いで「未来の子どもたちに基地のない沖縄」と書いた

名護市の中村吉良さん(71)は「判決よりも新基地反対の私たちの民意が上回る。デニー知事と一緒に、これからも変わらず現場で声を上げ続ける」と力

ちのたたかいのバッ克にある。強大な敵に立ち向かうのは県民の宿命みたいなもの。デニー知事も自慢を持った政府の圧力に屈せず頑張ってほしい」とホールを送りました。

県統一連の瀬長和男事務局長は「この辺に不当判決を出すのは、国も司法も沖縄を一切顧みない」との表れだ。新基地反対の県民の思いは変わらない。これからが未来につながる大事なたたかいになる」と話しました。

名護市の山田秀子さん(68)は「沖縄の声を聞かず民主主義を守

辺野古ゲート前 不屈の抗議続く

沖縄 決して負けない

らない不当判決だ。あきらめるわけにはいかないし、行動して押し返していく」と決意を述べました。

9月4日は1995年

に沖縄で米兵による少女暴行事件が起きた

日と重なります。沖縄

県統一連の瀬長和男事務局長は「この辺に不

当判決を出すのは、国

も司法も沖縄を一切顧

みないことの表れだ。

新基地反対の県民の

思いは変わらない。こ

れからが未来につな

がる大事なたたかい

になる」と話しました。

私たちがあらがわなけ

て反対の思いが私たち